



Cedepシンポジウム
発達と保育の本質の探究

「OECD 学びの羅針盤2030」の
基礎を築く乳幼児保育・教育

OECD 教育スキル局
シニア政策アナリスト
田熊美保

本日の焦点

1. OECD 2030年未来の教育プロジェクトの概要
2. 「OECD 学びの羅針盤2030」の紹介とその基礎を築く乳幼児保育・教育

本日の焦点

1. OECD 2030年未来の教育プロジェクトの概要
2. 「OECD 学びの羅針盤2030」の紹介とその基礎を築く乳幼児保育・教育

2015年～OECDの新しいアプローチ：国際マルチステークホルダー「未来の教育ビジョン」を共創

政府関係者 学者・研究者・教員養成 教員・校長 NGOs、財団、民間 生徒（高校生・大学生）



未来を創る「当事者」になる

1. OECDデータから世界のメガトレンドをみる・未来を予想
2. ティンドに関係なく、「創りたい未来」を描く
3. 変化する2030年の社会に向けて「描いた未来を創造」するために必要な「コンピテンシー」を考える
4. 未来創造力を育むカリキュラム分析・国際比較・事例研究

世界は、ますます・・・

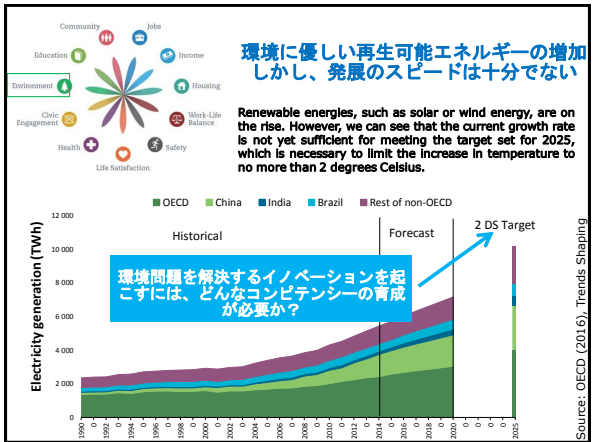
VUCA

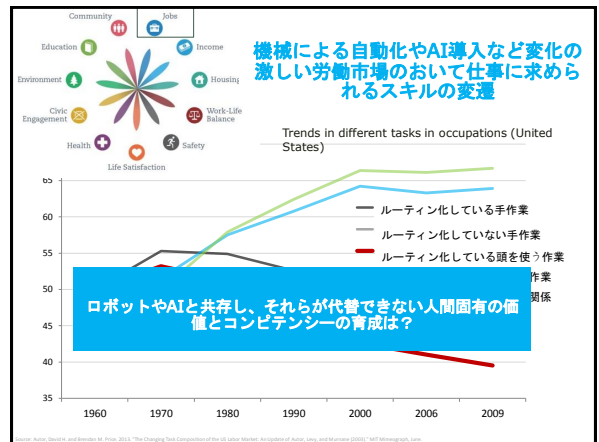
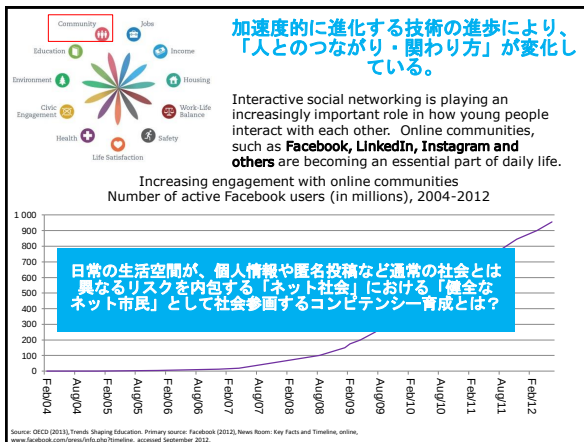
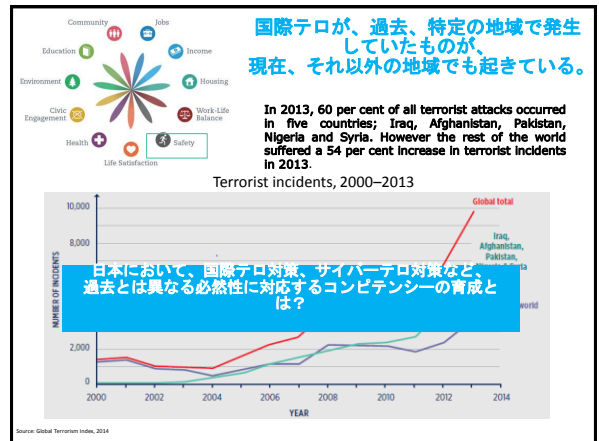
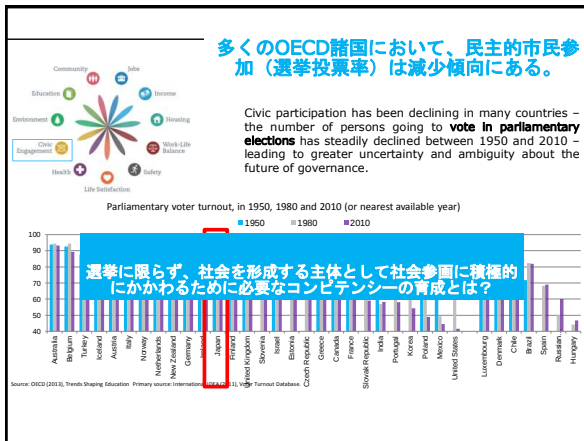
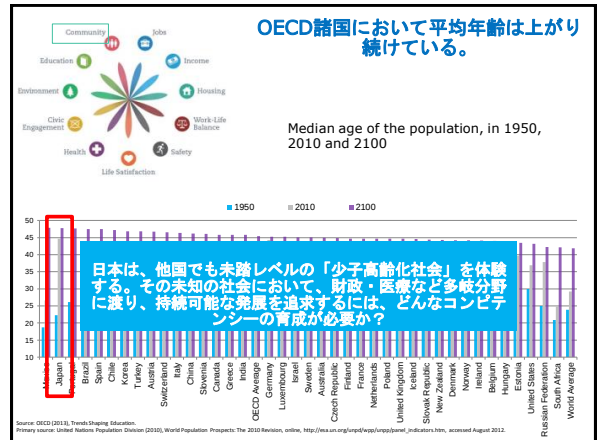
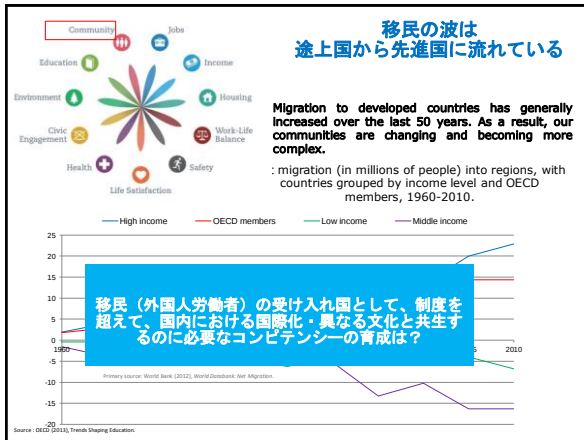
VOLATILE 不安定
UNCERTAIN 不確実
COMPLEX 複雑
AMBIGUOUS 曖昧



社会的つながり 雇用 所得 物質的豊かさ 住宅 ワークライフバランス 個人の安全 健康 市民生活 環境 教育

主観的幸福 生活の質の豊かさ



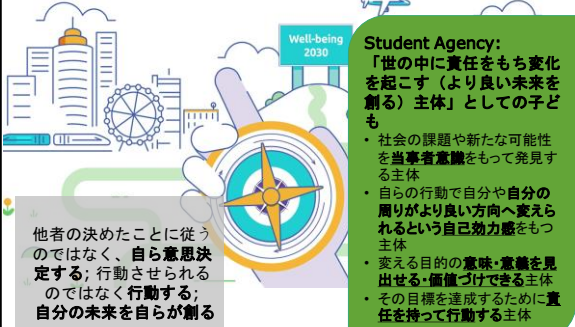


本日の焦点

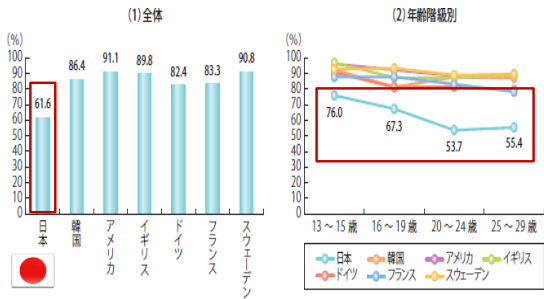
1. OECD 2030年未来の教育プロジェクトの概要
2. 「OECD 学びの羅針盤2030」の紹介とその基礎を築く乳幼児保育・教育



VUCAな世界を、社会全体のWell-beingを実現する未来に向かい、自らナビゲートするための羅針盤が必要！



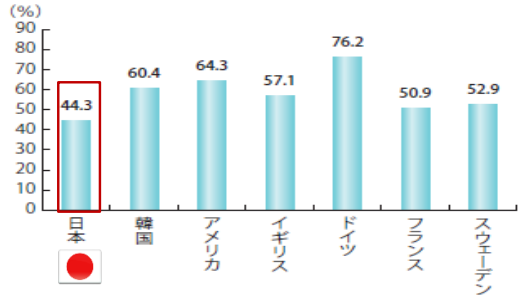
自分の将来について明るい希望を持っているか



(注) 「あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか」との問いに対し、「希望がある」「どちらかといえば希望がある」と回答した者の合計。

内閣府 2014年版「子供・若者白書」
http://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h26honpen/pdf/tokushu_01_02.pdf

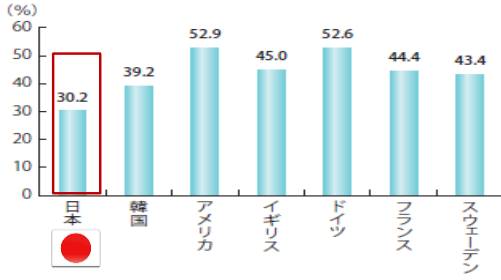
社会の問題に関与したい



(注) 「次のような意見について、あなたはどのように考えますか」との問いに対し、「社会をよりよくするため、私は社会における問題に関与したい」に「そう思う」「どちらかといえば関そう思う」と回答した者の合計。

内閣府 2014年版「子供・若者白書」
http://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h26honpen/pdf/tokushu_01_02.pdf

自分が関与することにより、社会現象が変えられるかもしれない



(注) 「次のような意見について、あなたはどのように考えますか」との問いに対し、「私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない」に「そう思う」「どちらかといえば関そう思う」と回答した者の合計。

内閣府 2014年版「子供・若者白書」
http://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h26honpen/pdf/tokushu_01_02.pdf

育てたい10の姿 「自立心」

2030の議論

「自律」(self-regulation, self control)
「自己効力感」(lotus of control からself-efficacy)
「自己肯定感」
「アイデンティティーの確立」
など



- ・「子ども」＝「一人の人格」(0才からChild agency人格を持つ主体として捉えるノルウェー)
- ・「育てようとコントロール」から「子どもに育ちを委ねる」へ
- ・Student voice- Child voice 「子供の声」を実践の改善・政策策定へ。(0才から社会に参画)



2030羅針盤の基礎としてみる本質2： 人・環境との関係性 Relational 保育・教育はエコシステムの一環

Student Agencyは
Student Autonomyとは
異なる。
「Co-agency」の重要性
＝Agencyは他者との関係
性の中で存在

Co-Agency:

お互いに依存しながら、生態を維持
する関係 (エコシステム)

- ・相互に作用し、支えあう関係性：
生徒同士・子ども同士、親・兄
弟・親戚、教員・保育士、地域の
大人・子どもなど
- ・その関係性の中で存在する「主体
(Agency)」が、有機的にそれぞ
れ他のAgencyと関係しあい、子ど
もの発達と学びが可能になる



関係性＝プロセスの質 ＜子どもの成長＞とプロセスの質・構造的質の関係性

プロセスの質は、子どもの成長を保证する有力な判断
材料。(ドイツ、米国、ポルトガル)

プロセスの質指標

- ・ 暖かく反応する
- ・ 認知的な学びを促す
- ・ 対立的又は放任的

双方のスキルに関係性が
みられる

構造的な質指標

- ・ 資格
- ・ スタッフ・子どもの割合

いずれも関係性はみられ
ない



育てたい10の姿

「協同性」
「社会生活との関わり」
「自然との関わり・生命尊重」

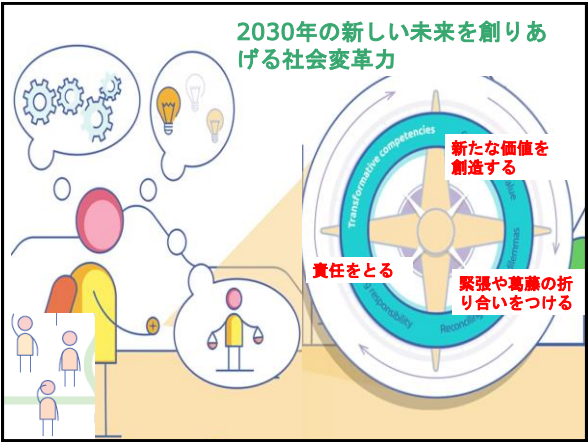
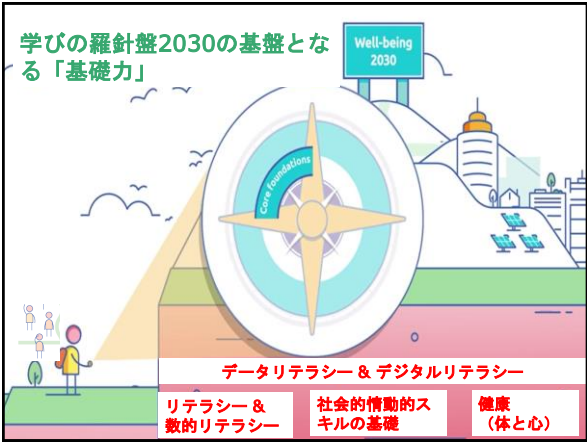
関係から学ぶ (プロセスの質)

- ・ 保育士・幼稚園教員・その他、園に関わるスタッフと
- ・ 子ども同士で (立場が人を育てる)
- ・ 周りの環境と (生き物やその他の物、教室の壁・玩具・砂場・
動物・ロボット・AIなど)
- ・ 親・兄弟・親戚と
- ・ コミュニティー・ご近所さんと
- ・ など
- ・ 保育・幼児教育・学校教育にかかわる大人の役割＝
子どもの学び環境を描き・設計するデザイナー兼エンジニア
保育士Agency

第2部：保育の質の向上 (ICTと保育、保育者の専門性、地域のつ
ながり、自治体、保育の質の議論)



2030羅針盤の基礎としてみる本質3： Whole child development 包括的な子どもの成長



育てたい10の姿

「言葉による伝え合い」
「数量・図形、文字等への関心・感覚」
「健康な心と体」

「豊かな感性と表現」
「思考力の芽生え」
「道徳性・規範意識の芽生え」

2030年議論

- Well-beingの議論、教育・保育の目的（健全な市民、友人とのつながり、食事・睡眠・遊びなどにより健康維持など）
- 「知徳体」（日本・韓国・中国）「Bildung」（北欧）
- 「遊び」＝「学び」の捉え方
- ECECでは、日常的にPBL、教科横断
c f。 学校教育ではカリキュラムマネジメントが課題

第一部：食べる・眠る・遊ぶ・つながる

Thank you!

2015/2019 第1フェーズ
OECD学びの羅針盤2019年5月22日発表
ウェブサイト上に、コンセプトノート（拡張現実&日本の事例含む）
2019年10月発表予定
一保健体育カリキュラム国際比較分析
2020年発表予定
一カリキュラムデザイン国際比較分析
一数学カリキュラム国際比較分析

2019/20ー第2フェーズ開始
カリキュラム全面実施に関する各国共有課題と政策対応の国際比較分析

THE FUTURE OF EDUCATION AND SKILLS
Education 2030

THE FUTURE WE WANT